

与謝野町 津波ハザードマップ



! 沿岸部では10分未満で津波が到達するおそれがあるため、海に近付かないようにしてください

土砂災害(特別)警戒区域

急傾斜地の崩壊

土石流

土砂災害警戒区域
 土砂災害により、住民の生命または身体に危害が生じるおそれのある区域。

土砂災害特別警戒区域
 土砂災害により、建物が破壊され、住民の生命または身体に著しい危害が生じるおそれのある区域。

津波浸水深(基準水位)

- 0.3m~0.5m未満
- 0.3m未満

凡例

- 一次避難所
- 二次避難所
- 避難所
- 避難地
- 風水害時使用可能
- 地震災害時使用可能
- 公共施設
- 福祉避難所
- 山田断層



避難施設について

- 一次避難所**
町と区により優先的に開設される避難所
- 二次避難所**
町が開設する必要があると判断した場合に開設される避難所
- 福祉避難所**
通常の避難施設での生活が難しい方がいる場合に、状況に応じて開設される避難所

津波からの避難

発災時には、以下のことに気をつけて、落ち着いて行動しましょう。



小さな揺れでも油断禁物
たとえ小さな地震でも、津波が発生する危険性があります。



より高い場所へ避難する
海岸から「より遠く」ではなく、「より高い」場所へ避難しましょう。



正しい情報を聞く
ラジオ・防災行政無線などで、正しい情報を聞きましょう。




車での避難は控える
車は約30cmの浸水で走行困難になります。車での避難は控えましょう。

地震が起きたときにとるべき行動

地震発生時には、あわてずに、まず身の安全を確保しましょう。また、海岸付近で揺れを感じた場合は、すぐに津波が襲来することがありますので、津波警報や津波注意報の発表を待たずに、ただちに高台などに避難してください。

1 地震発生!
地震の揺れから身を守る

- 落ち着いて自分の身を守る。
- ドアや窓を開けて、逃げ道を確保する。
- 土砂災害の予測される地域は、ただちに避難する。



2 安全の確認
避難の準備・開始
沿岸部では津波警報を待たずに、ただちに避難

- 家族の安全を確認する。
- 火の元を確認・初期消火を行う。
- 足をケガしないように靴をはく。
- 揺れがおさまったら、ただちに避難する。ただし、海岸付近にいる場合は、揺れと同時に避難する。
- 非常持ち出し品等を用意する。
- 余震に注意。

- 電気のブレーカーを切る・ガスの元栓を閉める。
※復旧時の火災・事故を防ぐため。
- 地域の要配慮者の手助けを行う。



3 情報の入手
情報の収集は安全な場所で行う

- 安全な場所に移動してから、正確な情報を確認する。
- 間違った情報や、うわさ、デマなどに惑わされないように注意する。
- 安全が確認されるまで、自宅には戻らない。



4 避難施設へ移動
一時的に避難した場所から、避難施設や自宅へ移動

- 安全の確認ができたら、一時避難した場所から避難施設などに移動する。
- 避難施設では集団生活のルールを守り、助け合いの心を持つ。
- 引き続き、災害情報・被害情報を収集する。



緊急地震速報を見聞きしたら

「緊急地震速報」は、最大震度が5弱以上と予想された場合に、震度4以上が予想される地域を対象に報道機関や防災機関からみなさんに伝えられます。この「緊急地震速報」を見聞きしてから数秒～数十秒後に強い揺れが始まりますので、この間に身を守るための行動をとる必要があります。ただし、震源域に近い地域では「緊急地震速報」が強い揺れに間に合わないことがあります。



大津波警報・津波警報・注意報

地震発生後、津波による災害の発生が予想される場合には、気象庁より「大津波警報」「津波警報」「津波注意報」が発表されます。大津波警報や津波警報の時は、すぐに以下のような行動をとりましょう。

種類	予想される津波の高さ		とるべき行動	想定される被害
	数値での発表	巨大地震の場合の発表		
大津波警報 (特別警報に位置付け)	10m超 (10m<予想高さ)	巨大	沿岸部や川沿いにいる人は、ただちに高台など安全な場所へ避難してください。津波は繰り返し襲ってくるので、津波警報が解除されるまで安全な場所への避難を続けてください。	● 木造家屋が全壊・流失します。 ● 人は津波による流れに巻き込まれます。
	10m (5m<予想高さ≤10m)			
	5m (3m<予想高さ≤5m)			
津波警報	3m (1m<予想高さ≤3m)	高い	ここなら安心と思わず、より高い場所を目指して避難しましょう!	● 標高の低いところでは津波による浸水被害が発生します。 ● 人は津波による流れに巻き込まれます。
津波注意報	1m (0.2m≤予想高さ≤1m)	(表記しない)	海の中にいる人は、ただちに海から上がって、海岸から離れてください。津波注意報が解除されるまで海に入ったり海岸に近付いたりしないでください。	● 海の中では人は速い流れに巻き込まれます。 ● 養殖いかだが流失し、小型船舶が転覆します。

● 震源が陸地に近いと津波警報が間に合わないことがあります。「揺れたら避難」を徹底しましょう。
● 津波は沿岸の地形などの影響により局所的に予想より高くなる場合があります。より高い場所を目指して避難しましょう。
● 地震発生後、予想される津波の高さが20cm未満で被害の心配がない場合、または津波注意報の解除後も海面変動が継続する場合には、「津波予報(若干の海面変動)」が発表されます。

津波から身を守る行動パターン

地震発生後、あっという間にやってくる津波。津波から身を守るためには、逃げる以外に方法はありません。一分一秒でも早く避難できるよう、そのタイミングと避難方法を覚えておきましょう。

